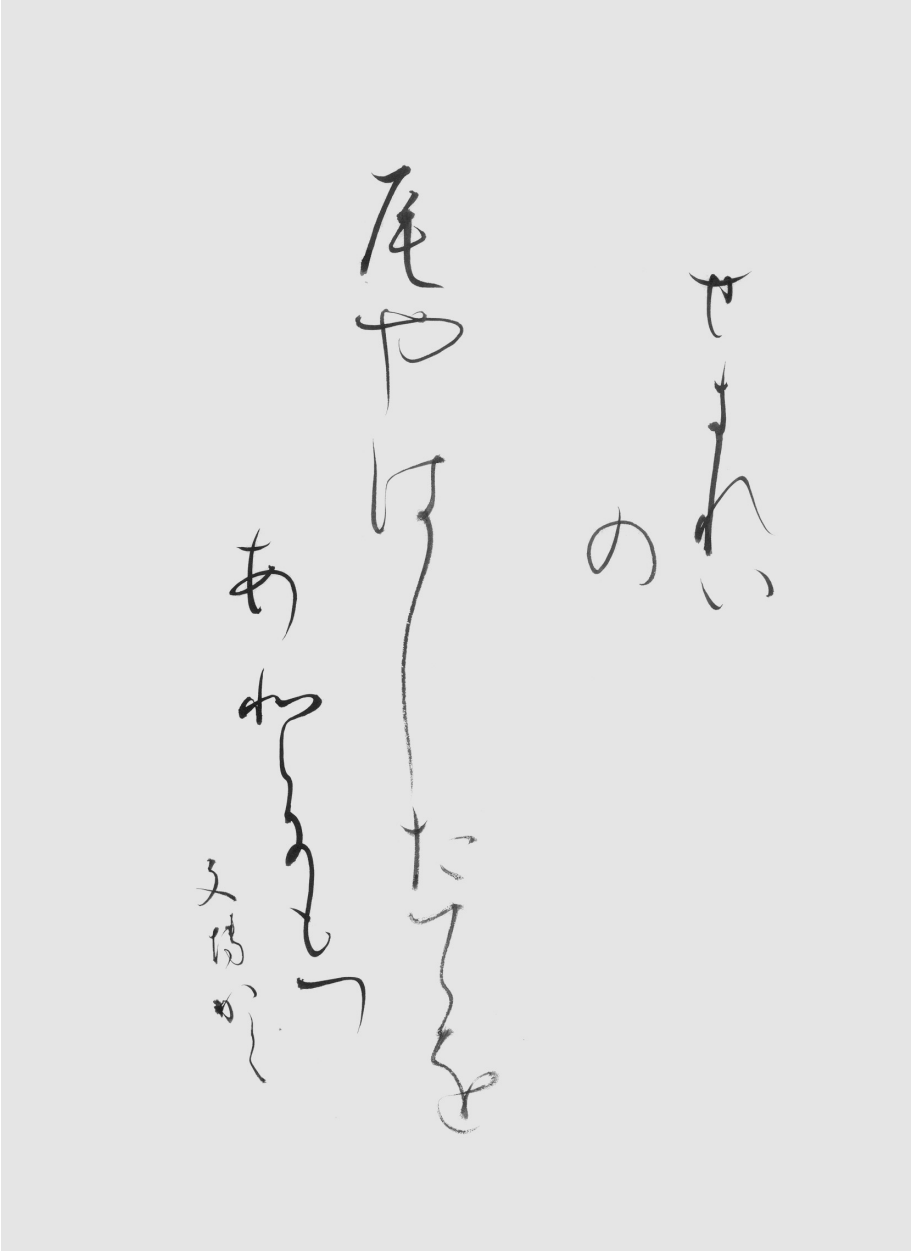
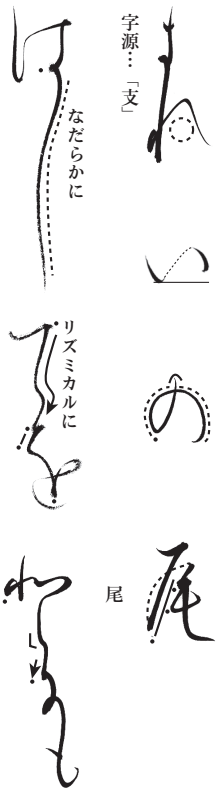
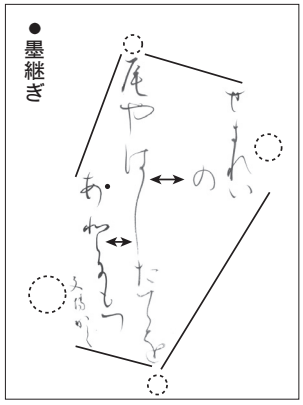
高・大・一般（仮名有級・準初段まで）

清水　文博



〈釈文〉 せきれいの　尾やはしだてを　あとにもつ　与謝蕪村





本課題は与謝蕪村の句「せきれいの　尾やはし立を　あと荷物」を散らし書きしたものです。変体仮名の「支（き）」と「尓（に）」を使用しています。似ていますがよく使用される字なので慣れるようにしましょう。

前号では仮名のリズムについて解説しました。今回は特に文字から文字への運筆のリズムを意識してください。連綿していない、いわゆる放ち書きの部分のほか、連綿部分のリズムには特に気をつけましょう。「はし」の「し」の形は書いた時のリズムによって、自然と湾曲の具合が異なってくると思います。下部「てを」の「を」は、「て」の運筆のリズムを受けて書いていることを意識しましょう。

リズムに気をつけて書くということは、さらさらと全体に速いスピードで書くということではありません。緩急をつけながら、全体としては「ゆっくり」書くようにしましょう。

散らしは今回の課題の学びの中心ではありませんが、行頭や行脚、行間がそろわないように注意して書きましょう。冒頭の「せ」と「あ」で墨をつけています。落款は「○○かく」（○○は下の名前）と体裁よく書き入れてください。

【用具用材について】

※柳葉筆（りゅうようひつ）の穂先のみおろして使用し、墨は磨（す）ったもので書きましょう。半紙は仮名用の滲（にじ）まない白色の半紙（**半紙二分の一ではありません**）を縦に使用してください。漢字用の半紙による提出は不可です。

高・大・一般　漢字

新(10)級から五段までは作品用紙として画仙紙八ッ切り（68㎝×17.5㎝）又は、画仙紙半切（136㎝×35㎝）の出品。六段から八段までは作品用紙として従来通り画仙紙半切（136㎝×35㎝）のみの出品です。

杉﨑　光波

〈釈文〉 久坐欲呼河漢語　苦吟如索肺肝題

〈出典〉 漢　愈明震　章江晩泊

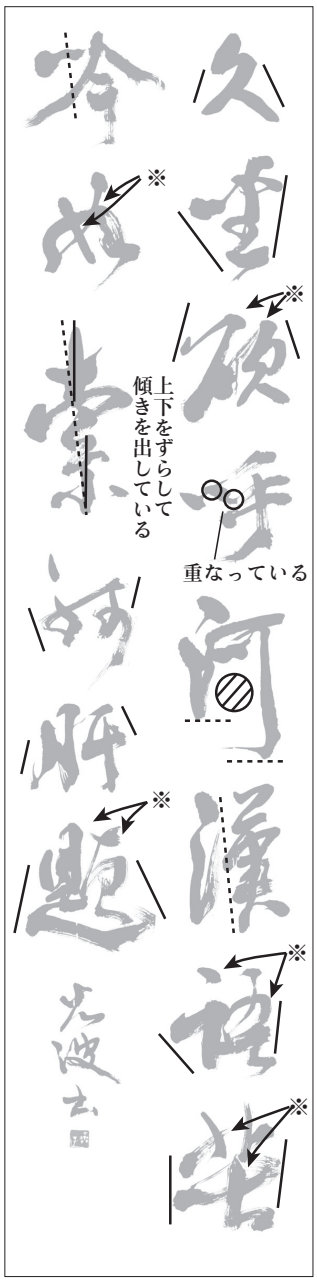
〈読み〉 久しく坐し　河漢を呼んで語らんと欲し　苦吟は肺肝を索めて題するが如し

〈意味〉 じっと座っていると天の河を呼んで話したくなり、苦吟は肺や肝を探してそれに題するようなものである。

〈解説〉

今回は米芾の行草を参考にして書きました。米芾（一〇五〇～一一〇七）は、祭襄、蘇軾、黄庭堅と並び宋の四大家と称されています。二王（王羲之、王献之）をはじめとする晋人の書を慕い、多くの古帖を蔵して学び、特に行草に優れて、「二王風の美しさを備え、文字を自在に承ける巧みさが光る」と言われています。

独特な字形を取り入れ、蔵鋒の中に露鋒を混ぜて線に太細の変化を加えました。多様な表現方法を意識しながらも、技巧に走りすぎないよう、楽しみながら取り組んでみてください。

次に挙げる特徴を確認してから、自分の呼吸を大事にして、抑揚を効かせるとよいでしょう。

○中心を左に傾けている…漢、索、吟など
○上部が大きく脚部が小さい…坐、語、苦など
○疎密や太細の変化…河、語、苦、索、題など（※）